

都市の歴史は文明史そのものである。都市居住がはじまって、すでに数千年を経ているが、われわれ人類の生活や活動の多くは、いまなお都市を基盤に存立している。21世紀に入り、自然災害はもとより、人類がみずから招いた人為的リスクに晒されることが常態と化し、都市が過去に経験したことのない類いの危機に瀕するようになった。こうして、都市の歴史を辿ることは、人類の居住履歴を批判的かつ冷静に再検証することにほかならない。いま求められているのは、近現代化の過程の中に見失われた、世界各地における伝統都市の基層を再発見することであり、そこに横たわる豊かな歴史の脈を掘り起こし、その固有の価値を、現代的視点から見直すことではないか。混迷する時代の中で、大地に根ざし、個性溢れる地域の生活とその歴史を確かな足がかりとしつつ、最適都市への展望を切り拓くことが、迂遠ではあるがわれわれの戦略となる。

この列島において、都市史をめぐる先駆的研究は、すでに戦前期から断片的には見られたが、質・量をとまなう研究成果が世に問われるようになるのは、1960年代末以降のことである。

とりわけ1970年代後半から1980年代前半の時期、都市史研究はすでに多様な学際性を伴いつつ、一挙に高い水準へと駆け上がった。

その後、1990年代から今日にかけて、多様な学的分野において内容豊かな成果が膨大に蓄積されてきた。いま、これまで多分野にわたる学問領域において、それぞれ独自に推進されてきた都市史研究・都市史学の潮流が合流しあう場を設定し、この列島における都市史学の、学際的で開かれた堅固なプラットフォームとして構築し、これをグローバル規模の研究ネットワークの中に位置づけること、これこそ、都市史学会設立の趣旨である。

本学会は、人間居住の基礎学・総合学としての都市史学が、都市はもとより、集落や自然などを含む社会や空間の一定の拡がりをも対象とし、政治・社会・経済・文化・思想・文学・空間・景観・考古・地質など、さまざまな学的分野の共同により、豊穡かつ独創的な成果を継続的に生み出し、併せて相互錬磨のフォーラムとして成熟することを企図したい。

創設・都市史学会

設立総会

記念講演 都市とはなにか

シンポジウム 都市史の現在 I

2013年12月14日 **土** 14:00—16:30 東京大学工学部2号館213号室

都市史学会設立総会

記念講演=都市とはなにか | 樺山紘一 (印刷博物館館長、東京大学名誉教授) 【15:30開演】

司会=陣内秀信 (法政大学) 終了後、17:00より懇親会を開催予定です (会費5,000円、会場は調整中)

2013年12月15日 **日** 10:00—17:30 東京大学工学部2号館213号室

シンポジウム=都市史の現在 I 司会=杉森哲也 (放送大学)

日本近世都市史 | 岩本 馨 (京都工芸繊維大学)

日本中世都市史 | 三枝暁子 (立命館大学)

イタリア都市史 | 片山伸也 (日本女子大学)

アジア都市史 | 大田省一 (京都工芸繊維大学)

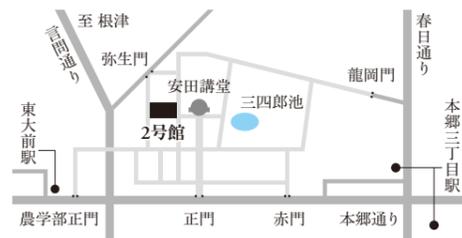
フランス都市史 | 加藤 玄 (日本女子大学)

コメント=吉田伸之 (飯田市歴史研究所)・高橋慎一郎 (東京大学)・井上 徹 (大阪市立大学)・

徳橋 曜 (富山大学)・伊藤 毅 (東京大学)

お問い合わせ=都市史学会事務局 113-8656 文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻伊藤研究室気付
電話 03-5841-6184 <http://suth.jp> office@suth.jp

14日の記念講演・懇親会、15日のシンポジウムは会員以外の方もご参加いただけます。なお、シンポジウムについては資料代として500円を頂戴いたします。



東京大学工学部2号館
東京メトロ南北線東大前駅より徒歩8分、
千代田線根津駅より徒歩10分、丸ノ内線・
都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩12分

 都市史学会
Society of Urban & Territorial History